

# 村上市国語部活動報告

部長 六井 幸(村上市立瀬波小学校)

## 1 研修テーマ

基礎・基本を大切にした国語科の学習指導

## 2 研修テーマ設定の意図

国語は言語活動力の育成の中核を担う教科として、基礎・基本を定着させ、具体的な言語活動を充実させることが求められている。これらの言語の果たす役割を踏まえて、的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して伝え合う能力を育成することや我が国の言語文化に触れて感性や情緒を育むことが重要になってくる。そのためには、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」、「読むこと」に関する基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培う必要がある。

また、学習内容において、螺旋的・反復的に繰り返しながら指導することで言語能力の定着が図られていく。

そこで、村上市プラン（年間指導計画）を元に、基礎・基本を意図的、計画的にきちんと指導することで言語活動の充実を図っていけると考えた。

## 3 活動の実際

○4月 代表部員会 事業計画立案

○12月 第1回部会 研修会

・研究授業参観 村上市立さんぼく北小学校

3年国語「民話や物語の組み立てを考えよう」

## 4 研修協議会より

○思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実に向け、教科書の叙述から大切な言葉を見つけ出し読み取るという言語技術について、1学期から計画的に指導されていた。3学年の実態から、挿絵や動作化と結びつけながら、楽しく人物の様子や気持ちが読み取れるよう展開を工夫しながら指導されていた。

○表現力では、発表はできるが友達の考えを聞いて自分の考えを深めるところまでたどり着けないという課題から、「発問の工夫」と「意見を効果的に伝えるための話型指導」を行っていた。

○「三年とうげ」での発問の工夫として「AとBの違いは何か」「AとBどちらか」と、比べる発問をする。2つに焦点化することで、課題が明確になり文章を根拠にしながらか自分の考えをもつことができた。

○交流の場では学習した話型を元に、相手の発言に対して自分の言葉で話すことができるようになっていた。そのため、誰とどういう点がどんな風に違うのか、または同じなのかがはっきりしており、分かりやすい話し合いとなっていた。

○言語活動の充実に向けた計画的指導において、確かな指導の成果が見られた授業であった。教師が課題を把握し、計画的に繰り返し指導することで、連鎖的に働き合って大きな成果へつながることが分かった。